

第2節 生物多様性の保全と普及啓発

1 生物多様性の保全

自然界では、個々の野生動植物が単独で生存するのではなく、多くの種が生態系という一つの系の中で深くかかわり合い、つながり合って、複雑な関係を保ちながら生きている。

そして、生態系内では、植物が太陽エネルギーを生物が使える形に変換し、捕食や分解などの関係によって物質循環が起き、それに伴ってエネルギーの流れができています。生態系は、人間の生活に必要な食料・燃料・医薬品の原料・建築資材等を提供するほか、水質の浄化、気候の安定、各種自然災害の除去・軽減などの様々な恩恵をもたらし、学術研究、芸術、文化、レクリエーション、観光の対象ともなっており、私たちが豊かな生活を送る上で欠くことのできないものである。

しかし、近年、過度の捕獲・採取や埋立て・護岸等の開発行為など人間の活動が直接関与する影響を始め、過疎化や第一次産業の衰退に伴う里地・里山・里海の荒廃など身近な自然環境の劣化、移入生物・外来生物の侵略等により、多くの在来野生動植物の種が絶滅の危機に瀕している。

(1) 希少野生動植物の保護管理

多種多様な野生動植物が絶滅することなく生息・生育し続ける、種の多様性を確保していくことは、人類の生存基盤である自然生態系を健全に保持するために必要不可欠なものであり、本県においても愛媛県レッドデータブックにより明らかとなった絶滅のおそれのある野生動植物を保護し、健全な自然の生態系を守っていくことが緊急の課題となっている。

そのため、自然公園区域内では公園毎に指定植物を定めて保護を図っているほか、公園区域外を含めて、「愛媛県野生動植物の多様性の保全に関する条例」に基づき、特に保護が必要となる野生動植物23種を「特定希少野生動植物」に、6箇所を「特定希少野生動植物保護区」に指定して、保護を進めている。また、特定希少野生動植物については、令和2年度までに全23種の保護管理事業計画を策定し、地域の保護団体と連携した保全を図っている。その後、コガタノゲンゴロウについては、生息密度や生息域の拡大により、特定希少野生動植物としての指定の必要がなくなったことから、指定解除を決定した(R5.4.14施行)。

<特定希少野生動植物 13種 (平成21年3月6日指定)>

アキサンショウウオ



(撮影者:田辺真吾氏)

ナゴヤダルマガエル



(撮影者:宇和孝氏)

ハッチョウトンボ



(撮影者:酒井雅博氏)

コガタノゲンゴロウ
(R5. 4. 14 指定解除)



(撮影者:酒井雅博氏)

ハマビシ



(撮影者:小沢潤氏)

ミズスギナ



(撮影者:永井保雄氏)

トキワバイカツツジ



(撮影者:橋越清一氏)

サギソウ



(撮影者:松井宏光氏)

クマガイソウ



(撮影者:永井保雄氏)

シコクフクジュソウ



(撮影者:永井保雄氏)

シコクカッコソウ



(撮影者:永井保雄氏)

チョウジガマズミ



(撮影者:橋越清一氏)

ウンラン



(撮影者:松井宏光氏)

< 特定希少野生動植物 10 種 (令和元年 7 月 19 日指定) >

ヤリタナゴ



(撮影者:清水孝昭氏)

ヌマムツ



(撮影者:清水孝昭氏)

チュウガタスジシマドジョウ



(撮影者:清水孝昭氏)

カジカ中卵型



(撮影者:清水孝昭氏)

ヒナイシドジョウ



(撮影者:清水孝昭氏)

イシガイ



(撮影者:千葉昇氏)

マツカサガイ



(撮影者:千葉昇氏)

デンジソウ



(撮影者:生物多様性センター)

ミズキンバイ



(撮影者:橋越清一氏)

ナミキソウ



(撮影者小澤潤氏)

<特定希少野生動植物保護区 6箇所 (平成21年3月6日指定)>

保護区の名称	保護区の所在
片上地区アキサンショウウオ保護区	今治市波方町樋口字大平乙 206 番 1 地先
宅間地区アキサンショウウオ保護区	今治市宅間字ヨシヲシ乙 227 番 2
台地区ナゴヤダルマガエル保護区	今治市大三島町台 530 番 3
庄内地区ハッチョウトンボ保護区	西条市旦之上乙 1 番 12
織田ヶ浜ハマビシ保護区	今治市東村一丁目甲 859 番 30 地先
織田ヶ浜ウンラン保護区	今治市東村三丁目甲 582 番地先

(2) 愛媛県レッドデータブックの作成

本県の自然環境保全のための重要な基礎資料となっている「愛媛県レッドデータブック2014」は平成15年3月に発行した「愛媛県レッドデータブック」の改訂版に当た

り、平成25年3月にとりまとめたレッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）に記載されている種について、各種の形態、分布域、生息環境等にとりまとめ、分類群ごとに編纂して平成26年10月に発行した。

令和3年2月、令和5年2月には、近年の生息・生育環境の悪化等による県内自生種の絶滅危険性の高まりや最新の学術的知見の蓄積等を反映させるため、絶滅危惧種（レッドリスト）を「えひめの生物多様性保全推進委員会」や「同委員会野生動植物専門部会」で審議した上で改定した。

○愛媛県レッドリスト 2020 の概要

1 「絶滅種」→「絶滅危惧種」への変更（3種）

○ニホンカモシカ 哺乳類（ウシ科）

絶滅種→絶滅危惧 I 類（CR+EN）

○ハマスズ 昆虫類（ヒバリモドキ科）

絶滅種→絶滅危惧 I 類（CR+EN）

○コナミキ 高等植物（シソ科）

絶滅種→絶滅危惧 I A 類（CR）



（ニホンカモシカ）

（ハマスズ）

（コナミキ）

2 上記以外のカテゴリー区分の変更（26種）

3 新たにレッドリストに掲載（24種）

4 学名等変更（13種）

○愛媛県レッドリスト 2022 の概要

1 カテゴリー区分の変更（8種）

【昆虫類：1種】コガタノゲンゴロウ（CR+EN→VU）

【淡水魚類：7種】チチブモドキ（NT→VU）、イドミミズハゼ（NT→VU）、イトモロコ（DD→VU）、コウライモロコ（DD→VU）、オカメハゼ（DD→VU）、チワラスボ（DD→VU）、シラウオ（DD→EN）

2 新たにレッドリストに掲載（2種）

【淡水魚類：2種】シロチチブ DD、ヒトミハゼ DD

3 学名等変更（3種）

【淡水魚類：2種】ヌマムツ、コウライモロコ

【クモガタ類・多足類：1種】イソカニムシ

① 掲載種数

各分類群のレッドリストに掲載されている種数については、表 2-4-5 「調査対象分類群別の目録種数・レッドリスト 2022 掲載種例等」のとおり。

② 記載内容

掲載種のそれぞれについて、原則として以下の項目を記載している。

- ・ カテゴリー（ランク）区分
- ・ 分類群、和名、学名、地方名
- ・ 種の特徴
- ・ 分布域
- ・ 生息状況、選定理由
- ・ 特記事項、参考文献、写粋真等

表2-4-5 調査対象分類群別の目録種数・レッドリスト2022掲載種例等

区分	専門分科会	調査対象分類群	愛媛県産野生動植物目録種数	レッドリスト掲載種	
				種数(対目録)	掲載種の例
動物	哺乳類	陸産哺乳類・海産哺乳類	種 60	種(%) 19(32)	カワウソ、ツキノワグマ、ニホンモンガ、ヤマネ、クロホオヒゲコウモリ、スナメリ
	鳥類	鳥類	336	68(20)	クマタカ、オオタカ、ヤイロチョウ
	は虫類 両生類	陸産は虫類	18	11(61)	イシガメ、ヒバカリ
		両生類	18	14(78)	カスミサンショウウオ、タルマガエル、フチサンショウウオ
	淡水魚類	淡水・汽水産魚類	198	53(27)	スサヅメ、イシトシヨウ
	昆虫類	昆虫類	*8,010	299(*4)	コハネオオイトトンボ、ゲンゴロウ
		クモガタ類・多足類	1,078	14(1)	キシノウエトタテグモ、ゴホトゲサトウムシ、トリテヤステ、イシイビヤステ
	貝類	陸・淡水産貝類	2,381	55(2)	ニッポンノブエガイ、シコクタケノキセル
		海産貝類		32(1)	ムラサキガイ、ハマグリ
	海岸動物	甲殻類	191	17(9)	カブトガニ、シオマネキ、ベンケイガニ
海岸動物		97	5(5)	ミドリシャシセンガイ、ゴゴシヤムシ	
植物	高等植物	高等植物	3,682	869(24)	ヒモラン、タキシタ、トキワハイツツジ、キリシマミスギ、エヒメアヤメ、シバナ、キキョウ
		コケ類	618	63(10)	クマノコケ、カビコケ
		藻類	477	53(11)	ハダシヤシクモ、イハラオオイソウ
		地衣類	328	81(25)	イコマウメノキコケ、イリタマコケ
	高等菌類	高等菌類	1,247	69(6)	フデタケ、チョレイマイタケ、フクリヨウ(マツホト)、アカカサケ、シヨロ、クロカワ、マツタケ、サメコ、ハタケチャダコケ
計	16分類	18,739	1,722(9)		

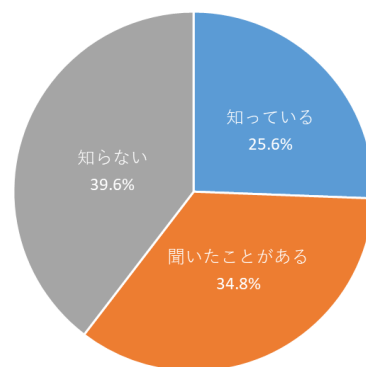
※ 昆虫類の目録種数 8,010 種は、目録として整理されたコウチュウ目、チョウ目、トンボ目などの数であり、未整理のものを含めると、昆虫類全体で記録のある種は、8,010 種以上とされている。
レッドリスト種数割合等、計欄の数値は、未整理のものを除いた数値である。

2 生物多様性保全の普及啓発

生物多様性に関する理解を深め、認知度の向上を図り、県民や企業等の生物多様性保全活動等への参画を促す機会とするため、「つなげ！生物多様性高校生チャレンジシップ」、「生物多様性フェスティバル」及び動物販売事業者の生物多様性保全推進を実施するとともに、民間企業とのパートナーシップ協定を締結している。

(1) 生物多様性の認知度の向上

「生物多様性保全」は、「地球温暖化対策」と並ぶ国際的な環境問題のテーマであるが、「地球温暖化対策」は実感として理解がしやすく、問題としても県民に受け止められているが、



生物多様性に対する県民の認知度
(令和4年度 愛媛県政に関する世論調査)

「生物多様性保全」は理解しにくい言葉で、まだまだ浸透していない状況にある。平成24年11月に実施した県民世論調査によると、「生物多様性」という言葉を「知っている」が16.7%であったことから、認知度向上のため普及啓発に取り組んできたところであり、平成30年11月同調査では18.8%、令和2年11月同調査では19.8%、令和4年11月同調査では25.6%と上昇しているものの、県民への広がりには十分進んでいないため県広報誌やホームページによる情報発信等、様々な取り組みを実施している。

(2) 「つなげ！生物多様性高校生チャレンジシップ」の開催

生物多様性を研究する高校生の活動に脚光を当て、モチベーションを高揚させるとともに、高校生が実践する活動を広く県下に周知し、オール愛媛で本県の豊かな生物多様性を次代に繋いでいく機運の醸成を図っている。

○つなげ！生物多様性高校生チャレンジシップ

【研究発表（令和4年8月20日（土））】

会 場：エミフルMASAKI

参加校：県内6校（今治西高等学校、今治東中等教育学校、宇和島東高等学校、愛媛大学附属高等学校、西条高等学校、松山中央高等学校）
県外4校（青森県立木造高等学校、秋田県立新屋高等学校、京都府立宮津天橋高等学校、広島県立祇園北高等学校）

内 容：講演（箱田敦只、のん）、参加校の活動発表、表彰

【交流学习会（令和4年8月21日（日））】

実施場所：松山城山公園ほか

参 加 校：県内4校（今治西高等学校、今治東中等教育学校、宇和島東高等学校、愛媛大学附属高等学校）

内 容：講師指導の下でのフィールドワーク、ワークショップ

(3) 「えひめの生物多様性フェスティバル」の開催

○ 開催日：令和4年10月1日（土）・2日（日）

○ 会場：エミフルMASAKI

○ 参加団体：NPO西条自然学校、まつやま自然ネットワーク、NPOいよココロザシ大学他

○ 内容：生物多様性センターや生物多様性保全に取り組む団体による活動の紹介

(4) 動植物販売事業者の生物多様性保全推進

県民、企業、学校等の多様な主体による生物多様性保全活動を推進するために、事業として動植物に関わる企業等に対する普及啓発活動に取り組むとともに、外来種や希少種への問題意識醸成を図った。

(5) えひめの生物多様性パートナーシップ協定事業

（協定期間5年間：令和2年4月1日～令和7年3月31日）

令和2年3月25日（水）に締結した「KNTーCTえひめの生物多様性保全」パートナーズ協定による協賛金により、エコツーリズムの推進地域としている西予市及び愛

南町において、モニターエコツアーを開催し、エコツアーリズムの定着や自然環境の保全と適正な利活用を図った。

【西予市】開催日：令和5年3月11日(土) 参加者：10人

内容：E-BIKEによる卯之町の町並み散策、明治授業体験、雑巾がけレース等

【愛南町】開催日：令和5年3月4日(土) 参加者：14人

内容：E-BIKEによる石垣の里、西海地域の探索

(6) 自然との豊かな触れ合いの推進

① 自然観察会の開催

県生物多様性センターでは、森林と共生する文化の創造を県民一体となって推進するため、次代を担う小中学生を対象に野外教育、環境教育を行う自然観察会を開催し、森林里地里山地域等における生物多様性の理解促進と自然環境保護に対する意識の高揚を図っている。

令和4年度の開催状況は表2-4-6のとおりである。

表2-4-6 令和4年度自然観察会開催状況

	観察会概要	実施日	参加者数	事業場所
1	オオキンケイギク現地学習会	令和4年6月4日	26	西条市高須
2	ハゼ類観察会	令和4年6月29日	40	八幡浜市
3	水田周辺の生きもの観察会	令和4年7月8日	16	西予市石城
4	ドジョウとカラドジョウ観察会	令和4年7月9日	11	久万高原町
5	ヨドシロヘリハンミョウ観察会	令和4年7月19日	10	愛南町
6	トラップを使った昆虫観察会	令和4年7月23日	50	松山市 県総合運動公園
7	ライトトラップ観察会	令和4年7月23日	40	松山市 高縄神社
8	織田が浜の植物・昆虫観察会	令和4年9月29日	99	今治市
9	唐子浜の植物・昆虫観察会	令和4年10月3日	45	今治市
10	今治市大西町の希少植物観察会	令和4年10月5日	63	今治市
11	コガタノゲンゴロウ観察会	令和4年10月21日	9	丹原町 兼久池
12	セアカゴケグモ学習会	令和4年10月24日	14	新居浜市 マリンパーク新居浜
13	外来カメムシ学習会	令和4年10月31日	14	東温市
14	地域のいきもの観察会	令和4年11月9日	19	松山市窪野町
15	セアカゴケグモ学習会	令和4年11月16日	21	今治市
	開催回数 15回	参加人数 計	477	



② 生物多様性に関する学習の充実

県生物多様性センターでは、次代を担う子どもたちに、様々な視点で生物多様性について学ぶ機会を提供することにより、生物多様性の認識度向上と自然環境保全意識の高揚・定着を図るとともに、教員等が研修等で活用する生物多様性に関する資料として「えひめの生物多様性ハンドブック」及びハンドブックの概要版である「えひめの生物多様性ガイドブック」を活用し、県政出前講座及び教職員を対象とした研修会等において生物多様性に関する講習を実施している。

ア 生物多様性ニュースレターの発行

生物多様性の保全に向けた取り組みの紹介や本県に生息・生育している希少野生動植物や注意を要する外来生物の紹介、生物多様性センターが実施している調査・研究等について掲載し、県民の生物多様性保全意識の高揚・定着を図るための情報提供を行っている。

- 発行回数 年2回
- 発行部数 各回3,000部
- 配布先 各市町、小・中学校、高等学校等



【ニュースレター】



【ハンドブック】



【ガイドブック】

イ 「愛顔の生きもの調査隊」事業の実施

野生動植物専門家の育成を図るため「愛顔の生きもの調査隊」を募集し、専門家の指導のもと生物の調査手法等を学ぶ調査会を実施するなど、様々な視点で生物多様性を学ぶ機会を提供している。

ウ 生物多様性保全・再生グループの育成

絶滅危惧種の保全活動に取り組もうとしている地域組織を対象に、種の保護や

生息・生育環境の管理手法についての専門的な助言、指導を実施した。

○東温市（奥松瀬川創生会議）

③ AI活用生き物探求支援事業の実施

野生動植物の判別アプリ「バイオーム」を活用し、小中学校など環境教育現場での実証や、県民が身近にある動植物を自ら認識してもらう体験に取り組み、環境保全意識の向上と生物多様性の保全につなげた。

ア 動植物判別アプリモデル校の指定

上島町立生名小学校、上島町立弓削中学校、久万高原町立父二峰小学校、久万高原町立美川中学校、西条市立石根小学校、西予市立城川中学校、八幡浜市立白浜小学校

イ クエストの実施

テーマ「みんなで愛媛のいきもの大調査！」

内容：県内で撮影した生き物5種の投稿を目指す

期間：令和4年9月1日～12月31日